

2008 1/5 氷ノ山



日時 2008.1/5

県名 兵庫県

山域 氷ノ山

ルート 若桜ゲレンデ・三ノ丸・山頂・わさび谷

メンバー 石野・大塚・福迫

装備 山スキー、冬山装備

天候 曇り / 晴れ

年末年始から降り続いた雪で正月早々から雪崩遭難の悲しいニュースが流れている。

我々も中央アルプスの年始登山を計画していたが、30日からの寒波到来予報で中止を決定した。

今年は視界の悪い急激な乾雪の降雪で事故が起こらなければと、思っていた矢先だった。槍平小屋付近で雪崩れが発生するなんて想像できないことだ。山を愛する者として敬愛を送る。



膝下ラッセル

寒波も一段落して氷ノ山へ足をむけた。まずはシーズン始めとあって、若桜側からリフトを使い登ることにする。年始に登山者が訪れたかどうか分からないが、登山口からは全くノートレースで

二の丸付近



ティはラッセルなし登れて、地図読みもいらないのでラクそのものである。WhiteBirdはまだまだそんな弱腰ではないのでいつもトップ集団である。

ある。ワンディなので軽荷と言ってもピバーク装備にザイルを常備してるので泊まり装備になんら変わらない重さである。

板を履いて膝下20cmまで潜るラッセルである。3人のシールトレースをつけると、後続パー

稜線を登り詰めると、二の丸付近に出るのだが雪は思っていたほどに

三ノ丸付近



多くもなく夏道ルートが分かるほどに、チシマ笹がまだまだ顔を出している、あと1mは欲しいところだ。

この情景は昨年と同様である。昨年はこれで終わり雪解けになってしまったのだが・・・今年は期待持てそうな気もしな

いではないが、いかんせん地球温暖化のためにどうとも言い難い。

三ノ丸に着く頃にはガスも濃くなり視界 100m も無くなってきた。しかし風もなくさほど寒く感じない、気温 - 2 度。時間もまだまだ早いので山頂を目指すことにする。ワサビ谷の降り口を確認して山頂へと続く稜線歩きだ。昨夜の雪が木々に張り付いてエビのシッポになりとても美しい。

山頂直下の巨大杉の着雪はモンスターに姿を変えて仁王立ちで出迎えてくれていた。気温も低いので落下する心配もない。気温が上昇すればドラム缶ほどの雪魂が上から容赦なく落下してくるだろう。明日の日曜日は天気がいいので全て落下するだろう。



ほぼ夏道通りに進んで行くが山頂小屋付近は時折ホワイトアウト寸前になり風も強い。入り口付近の雪をスコップで払いのけて小屋内へ入る。年末に割れた窓が痛々しくベニヤ板で補強していた。小屋内で昼食 Time をとるが誰も訪問者はなかった。山小屋の外にある氷ノ山の山の神に初詣を済まし、さぁ下山しますか！。と言っても板からシールは外せない。深雪で笹が頭を出しているので滑るところではない。忠実にトレースを引き返し、ワサビ谷降り口に近づく頃にガスっていた空がやっと晴れ間を見せだし、モノトーンの世界が太陽を浴びて一斉に起き出しキラキラと光り輝き始めた。

山頂はホワイトアウト



わさび谷は昨年同様に播州のヤブスキーここにあり・・・とにかく転ばないようにブッシュかき分け降りるのみである。日が射し込んでくるに連れて気温も上昇してくる。急斜面で小さな雪崩れが起き始めてきた。雪がまだまだ締まっていないので日が当たれば当たればで自然現象で雪解けが始まるのである。

スキー場へ飛び出す頃には、すっかり快晴になり杉木の着雪もドスンドスンと音を出して落下していた。
今シーズンは、せめて10日に一度は寒波がやって来て、冬らしい冬になってほしいものである。

播州のヤブスキー、ここにあり！

